

【概要】 ○原子力災害の実態と復興への取組を、国や世代を超えて継承・共有していくための情報発信拠点（アーカイブ）施設を、双葉町中野地区において整備する。平成32年度の運営開始を目指す。

【アーカイブ拠点施設概要】

《基本理念》

世界初の甚大な複合災害を経験した福島



この災害からの復興拠点として
人々が集うシンボルとなる場

原子力災害と復興の記録や教訓の
未来への継承・世界との共有

福島にしかない原子力災害の
経験や教訓を活かす
防災・減災

福島に心を寄せる人々や団体と連携し、
地域コミュニティや文化・伝統の再生、
復興を担う人材の育成等による
復興の加速化への寄与

《事業活動方針》

ふくしまの経験、そこから得た教訓を後世に残すため、
共にこの災害を経験し、立ち向かった県民の力
“オール福島”の参加・協力で4つの事業を実践します。

原子力災害の教訓を伝え、
未来の安全へつなげる

- ・展示や資料を活用した原子力防災研修の実施
- ・他施設との連携、共同研修など、目的にあわせたメニューの展開

リアルな展示と体験・プレゼン
による福島にしかないプログラ
ムの提供

- ・蓄積された資料、証言に基づく展示
- ・原子力防災の蓄積型、体験型の学習
- ・県民参加による生の声、想いの発信
- ・現在進行形である原子力災害の訴求

唯一無二の記録・記憶の蓄積と
後世に伝えるための保存

- ・県民インタビューによる災害の記憶の収集、保存
- ・災害対応の記録(行政、企業、個人)の収集、保存

経験を教訓に生かす
人材の育成とネットワーク化

- ・原子力災害やその教訓(例：防災)に関する調査・研究
- ・上記人材の育成と専門分野別の調査研究の継続的な推進



【スケジュール】

29年度	30年度	31年度	32年度
建築・展示設計、建築工事・展示製作等			施設オープン

【平成29年度県予算】

- アーカイブ拠点施設整備事業【245,000千円】
施設及び展示について基本設計及び実施設計を行う
- アーカイブ拠点施設設置準備事業【108,234千円】
震災資料の収集や分類、シポジウムの開催や学習書籍の作成を行う